

人口減少地域の居住継続性に影響を与える要因分析

名城大学 学生会員 ○吉川 涼介

名城大学 正会員 鈴木 温

1. はじめに

近年、我が国では人口減少、少子高齢化が進展しており、特にそれが地方部で顕著となっている。それに伴い、行政サービス・公共交通サービスの低下、商業施設の撤退など生活利便性が下がり、QOL も低下している。しかし、生活利便性や QOL が低い地域でも持続可能性の低い地域（限界集落）と高い地域（人口減少が緩やか）があり、地域の持続可能性に直接影響する住民の居住継続性にどのような要因が影響しているかを明らかにすることは重要な課題である。

居住意向に影響を与える要因を明らかにする研究^{1) 2)}では、家系が地域にいつから住んでいたかや地域が経てきた歴史的要因については考慮されていなかった。そこで、本研究では地方の人口減少地域において、個人や地域の歴史的要因が居住継続性に対してどのような影響を与えるのかを明らかにする。

2. 研究方法

2.1 研究対象地域について

本研究では、対象地域として中部地方と三重県の市町村の中から 51 市町村を選出した。選出方法は、各市町村を人口規模、人口増減、社会増減、自然増減、高齢化率の大きさ、都市圏に含有するかどうかでグループに分類し、各グループの中からモニター数や回収想定率を考慮し、対象市町村を選出した。

2.2 Web アンケート調査の概要

令和元年 12 月に実施した対象地域在住の 15 歳以上の一般の方へのアンケートを用いて分析を行う。調査の概要を表 1 に示す。

3. 分析方法

3.1 共分散構造分析

本研究では、Web アンケートの集計結果に基づき、歴史的要因と社会的要因の間や、個人的要因、生活の質、社会的要因、歴史的要因と居住意向の間にどのような因果関係があるのかを明らかにするために共分散構造分析を行った。共分散構造モデルの構造仮説は図 1 に示す。

表 1 Web アンケート調査の概要

調査対象	対象地域に在住の 15 歳以上の一般住民
対象地域	
愛知県	蟹江町(52),小牧市(103),瀬戸市(103),扶桑町(42),武豊町(52),知立市(62),長久手市(83),東海市(93),尾張旭市(103),豊明市(93),設楽町(6),東栄町(5),豊根村(3),北名古屋(62)
岐阜県	岐南町(42),白川村(2),中津川市(62),飛騨市(51)
三重県	東員町(47),熊野市(26),川越町(42),朝日町(21),南伊勢町(21),尾鷲市(37)
山梨県	甲斐市(98),上野原市(43),南アルプス市(93),山中湖村(11),道志村(4),忍野村(6)
静岡県	伊東市(93),御殿場市(52)
石川県	加賀市(31),津幡町(62)
長野県	阿智村(11),阿南町(7),下條村(10),喬木村(11),高森町(21),根羽村(3),松川町(33),泰阜村(2),大鹿村(1),天龍村(3),売木村(1),平谷村(1),原村(11),飯田市(89)
富山県	黒部市(52)
新潟県	湯沢町(16)
福井県	鯖江町(103)
回収方法	Web 回収
回収数	2081
調査時期	令和元年 12 月
調査項目	● 個人属性（年齢、家族構成、居住地、居住年数など） ● 生活満足度（商業施設へのアクセスの良さ、鉄道の利用のしやすさ、住宅の広さ、自然環境、治安の良さ、近所付き合いの良さなど） ● 災害履歴、歴史的構造物、先祖伝来の土地など ● 居住意向（5 点法）

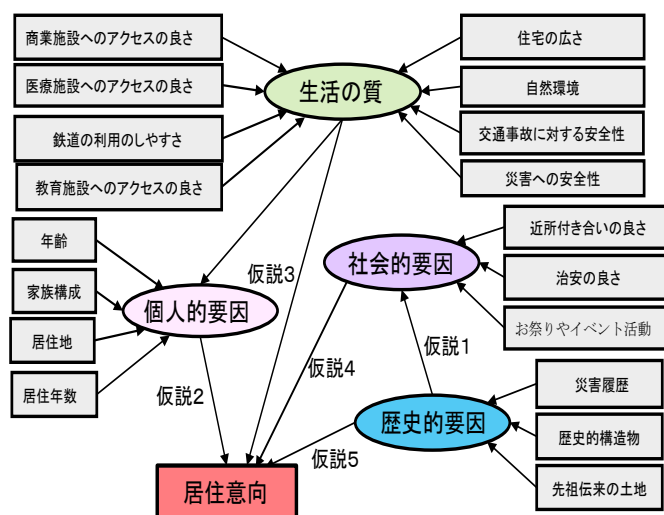


図 1 共分散構造モデルの構造仮説

4. 調査結果

図2は Web アンケート調査から得られた住民の生活満足度の評価を表したものである。生活満足度は、利便性、快適性、安全性を考慮した生活の質と、人と地域とのつながりを表す社会的要因で規定した。生活満足度の評価で満足と答えた人は、日当たりや見通しが 25.6%、次いで自然環境が 24.2%、住宅の広さが 21.6%であり、快適性の項目で多い結果となった。これは、今回のアンケート調査の対象地域を主に人口減少地域から選定し、緑や自然が多い中山間地域が多く選ばれたためであると考えられる。一方で、

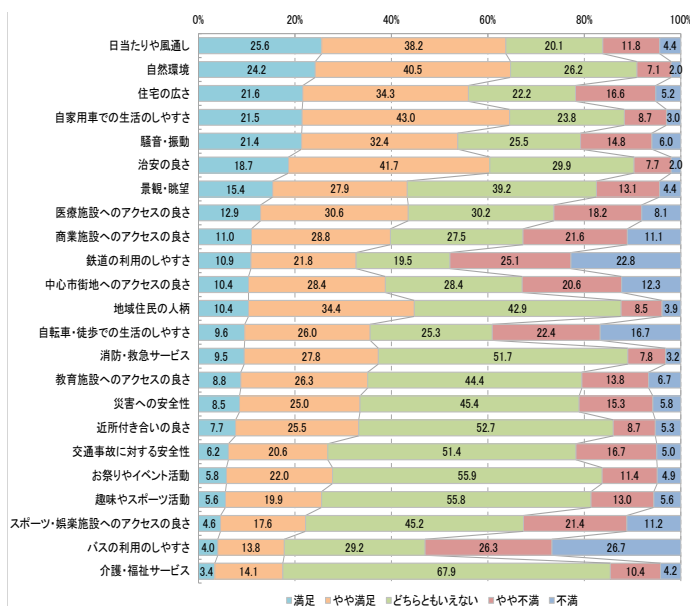


図2 生活満足度の評価

介護・福祉サービスが 3.4%、バスの利用のしやすさが 4.0%、スポーツ・娯楽施設へのアクセスの良さが 4.6%であり、利便性の評価に関しては現状に満足する人が少ない結果となった。また、介護・福祉サービスは全ての項目の中で、満足度に対してどちらともいえないと答える人が 67.9%と最も多かった。図3は先祖のお墓の場所と居住意向の相関性を示している。図より、住まいの近くや市区町村内に先祖のお墓がある人は居住継続性が高く、今の場所に住み続けたいと思っていることが分かる。図4は自分の住まいの周辺に家族や親族がいるかどうかと居住意向の相関性を示していて、住まいの近くに家族や親族が住んでいると居住継続性が高いことが分かる。

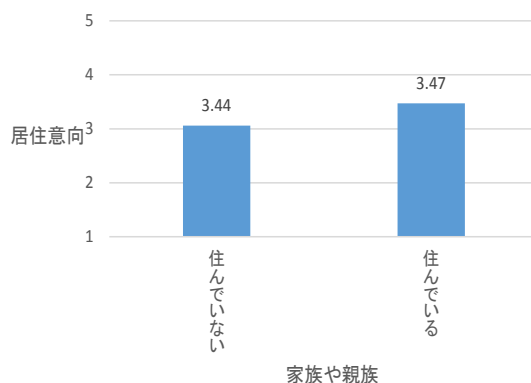


図3 先祖のお墓の場所と居住意向の相関性

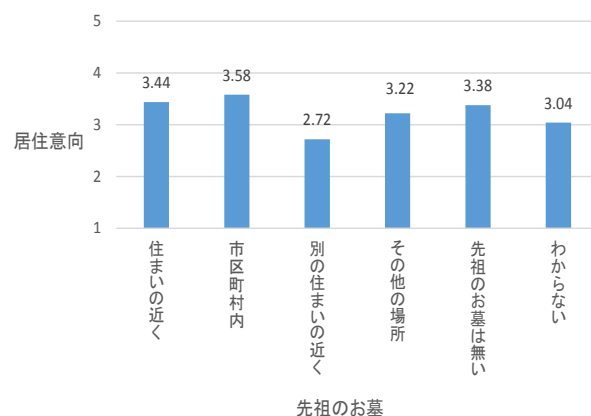


図4 家族や親族と居住意向の相関性

5. おわりに

本研究では、Web アンケート調査から得られた結果を集計して居住意向との相関性を考察した。今後は、プログラミングソフト R を用いて、共分散構造分析を行い、個人属性、生活満足度、土地柄と居住意向との関係を明らかにしていく予定である。

謝辞

本研究は、東北大学大学院国際文化研究科青木俊明准教授に助成をいただき、記して感謝をあらわす。

参考文献

- 1) 森田 哲夫, 小暮 美仁, 塚田 伸也, 橋本 隆, 杉田 浩: 限界自治体の生活質と居住意向に関する研究, 社会技術研究論文集, Vol. 10, pp.86-95, 2013
- 2) 引地 博之, 青木 俊明, 大淵 憲一: 地域に対する愛着の形成機構—物理的環境と社会的環境の影響—, 土木学会論文集 D, Vol. 65, No2 2009